

となみ

広報 No.260
令和8年
2026
7 月号

Contents ～今月の内容～

特集『子供が主語』の

学びへ 2

暮らしの情報 11



「庄川と散居が織りなす花と緑のまち」

もっと元気 ほっと安心
ずっと幸せ やっぱり砺波

市公式ソーシャルメディアでも
情報発信中



X (Twitter)



Instagram



LINE



となみ夜高まつり 行燈制作・太鼓や笛の練習風景(鍋島夜高保存会)

砺波市の教育がアップデート！

『子供が主語』の学びへ

主体性を育む教育へ

近年、人口減少やグローバル化の進展、急速な技術革新などにより、私たちを取り巻く社会は大きく変化しています。最近でも、人工知能（AI）の発達や国際情勢の変化など、将来を予測することが難しい時代となっています。

こうした中で、子供たちには、変化を前向きに受け止め、自ら考え、判断し、行動する力がこれまで以上に求められています。また、多様な人々と協力しながら課題を解決する力や、あふれる情報の中から正確で必要な情報を見極め、新たな価値を生み出し、未来を切り拓いていく力も重要です。

このような背景を踏まえ、子供たち一人ひとりの主体性を育むため、学校では次の4つのことに取り組んでいます。

学校の取組み01

「とらなみ授業スタンダードV」による授業改善



▲詳細はこちら

砺波市では、授業改善の方針として「とらなみ授業スタンダードV（ファイブ）」を策定し、1時限の授業の中で次のことを意識して取り組んでいます。このようなサイクルを大切にし、子供たちが主体的に学ぶ土台をつくります。

1時限（40分間）

導入

学び合い

まとめ・振り返り

授業の導入に子供と教師が協力して本時の課題を考えます。

子供たちは課題に対して、対話等を通して考えを深めます。

子供たちが授業で学んだことを自分の言葉でまとめたり、学びを振り返ったりします。



タブレットを使った授業の振り返り



グループでの対話の様子



授業の課題とそのアプローチを説明

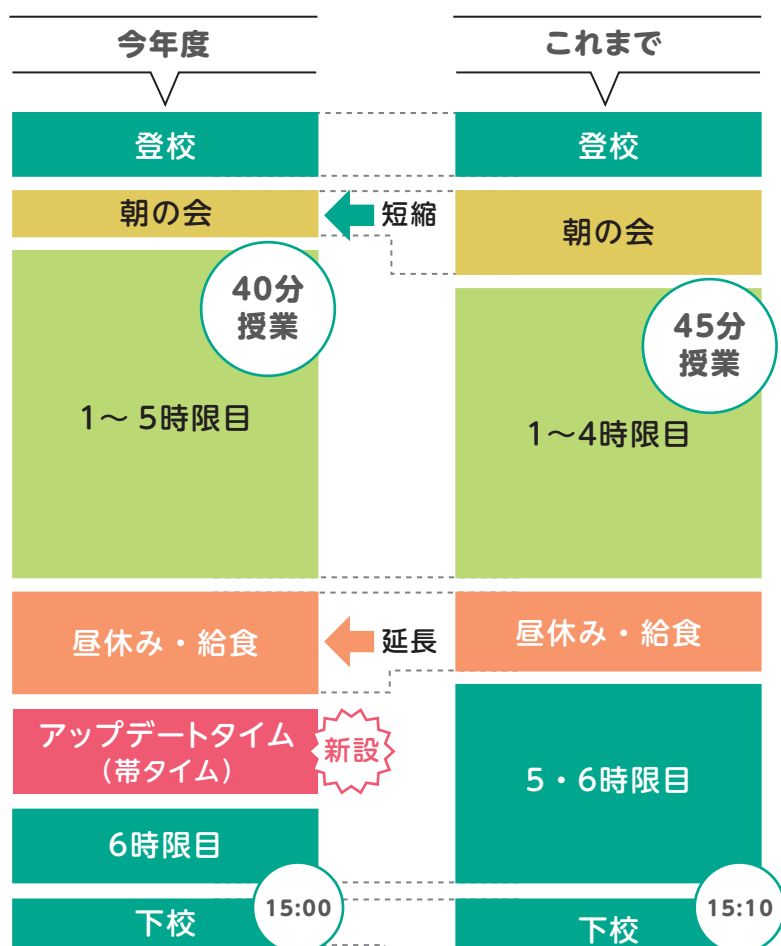
教育センター ☎ 33-1559

学校の取組み 02

「40分授業」の導入から生み出した時間の有効活用

「となみ授業スタンダード」による授業改善の積み重ねにより、子供たちが主体的に学ぶ土台が整ってきました。これを踏まえ、令和7年度の2学期から市内の4小学校において、試行的に1時限「45分授業」から「40分授業」へと変更しました。

実施した学校からは、5分短縮することで、「授業の最後まで集中して学習」に向かう子供が増えた」という声や、短縮した時間は、分からないところを相談したり、自分の得意な部分を伸ばしたりするなど、「子供たち自身で考えて効果的に学習内容を決定できる時間」に使うことができる」との報告がありました。それを受けて、本年4月から市内全ての小学校で「40分授業」を実施しています。



〈砺波北部小学校の事例〉※各小学校によって、時間割は異なります。

Q「40分授業」にするメリットはなに？

▶子供たちの集中力の向上

授業時間を5分短くできたことにより、子供たちの集中力が維持しやすくなりました。また、比較的、集中力を維持しやすい午前中の時間帯に今まで4時限実施していましたが、5時限目まで組み込めるようになりました。

▶帯タイムの新設

授業時間を短縮して生み出した30分間(5分×6時限)の時間を「帯タイム」と言います。その名称は各学校によって異なり、例えば砺波北部小学校では「アップデートタイム」、鷹栖小学校では「スキルタイム」と呼んでいます。

この時間を使って、子供たちは主に次の2つのことに取り組んでいます。

①心や身体の不調をいち早くキャッチ

タブレットで心の健康観察を実施し、いじめや不登校の兆候をいち早くキャッチできるので迅速な対応につながります。

②自己選択学習の時間を創出

授業で分からなかったところを相談したり、得意な科目の学習にあてたり、子供たちが自分で決めて進める「主体的な学び」を促します。



教育センター
山越所長



学校の取組み03

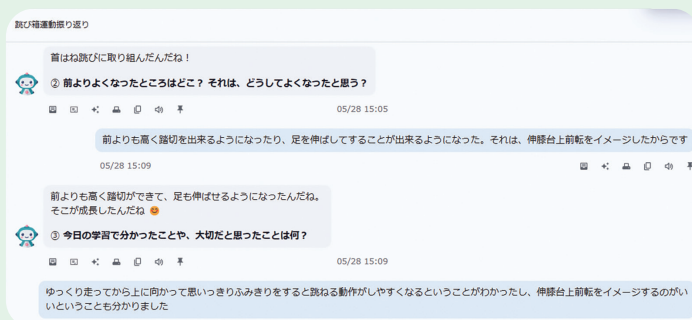
生成AIの活用

生成AIとは、文章や画像、音声などを人工知能(AI)が自動で作り出す技術です。便利な一方で、生成AIが作成した内容には誤った情報が含まれる場合があります。そのため、生成された情報をそのまま信じるのではなく内容を確認し、正しく活用することが大切です。

小学3年生以上で生成AIを使った学びを取り入れ、情報を見極めたり、情報モラルについて考えたりする時間を大切にしています。「どのように質問をしたらよいか」「得られた情報をどのように活用するか」を自ら考える学習を通して、子供たちの主体性や情報活用能力を育んでいます。



教育センター
南部主事



国語や体育の授業の 振り返りに生成AIを活用

子供たちの授業の振り返りに対して、AIが子供たちの考えをさらに掘り下げます。



外国語(小学校)や英語(中学校) の学習に生成AIを活用

子供たちがAIに対して英語で質問を投げかけることでAIが英文の添削をしてくれます。AIの添削をそのまま受け入れるだけでなく、教科書等を使ってそれが本当に正しいか確認も行います。

学校の取組み04

校内サポートルームの設置・活用

令和7年度末までに市内全ての小中学校に校内サポートルームを設置しました。児童生徒が「元気が出ない」ときや、「まわりが気になって学習に取り組むのがつらい」ときなどに子供たちが楽しく安心して過ごせる居場所を提供し、心の教室相談員等が一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。

学校によってサポートルームのレイアウトなどを工夫しており、心が不安定で落ち着きたいときには、面談や読書、音楽、図工などを行ったり、集団の中で学習しにくいときは個別学習を行ったりできます。

子供たちは、自分の心や体の状態に応じて学び方や過ごし方を選択しながら、自分自身と向き合う力を育んでいます。



子供たちが集中して学習できる自習スペースや工作など好きな活動ができるスペースが整備されています。



子供たち一人ひとりが自分の目標やペースにあわせて過ごすことができます。



サポートルームでの活動も、通常の授業時間割にあわせて行っています。

みんなに聞く ～砺波市の取組みについて～

教育センター
長井主幹



4月から40分授業が始まるなど、砺波市の教育がアップデートしています。どのように取組みが変わったか、児童や先生、保護者自身が実感している効果などについて伺いました。

Interview 01

小・中学生の保護者 大野さん

40分授業など先行的な授業形態に当初は不安もありました。しかし、学校が子供たちの主体性を育み、挑戦を後押ししてくれる環境に変わってきたことを実感し、子供にとって非常に有意義な変化だと感じています。



Interview 02

庄南小学校6年生の児童

授業が40分になり、集中して学習できるようになりました。5分短くなった分、自分で時間配分を工夫する力もつきました。AIを使うことで、自分では気づかなかった発見や、どうしてこうなるのか理由もよく分かるようになりました。



Interview 03

庄川小学校の先生

砺波市の教育の進化にあわせ、私たちも学び続ける姿勢が大切だと感じています。40分授業の中での時間の使い方や生成AIの活用方法も正解は1つではありません。工夫を重ね、子供たちの実態に応じた学びを共に見つけていきたいです。



Q 子供たちのために大人の私たちが今できることって何だろう？

未来を担う子供たちの成長のためには学校だけではなく、家庭や地域の方々のご協力も大切です。ぜひ、この機会に自分にできることを考えてみませんか？ここでは子供たちのための取組みについていくつか事例を紹介します。

事例1

まずは、私たち大人が積極的に活動している姿を示しましょう

子供たちは私たち大人が交通安全やPTA活動などを積極的に行ったり、挑戦したりする姿を見て、自分たちもやってみようという気持ちになります。



交通安全運動



PTA活動(運動会親子競技)

事例2

子供たちの主体性を育むために、子供たちにどのような声かけが必要か考えてみましょう

「こうしなさい」「こうしたらいいよ」と答えを先に示すのではなく、「どうしたい?」「どんな方法があるかな?」と子供自身に考えを問いつけることで自分で判断し行動する力が育まれていきます。

子供たちは小さな成功や失敗を経験しながら成長していきます。地域や家庭でも子供の思いや考えに耳を傾け、温かく見守る声かけをお願いします。

子供との家庭での関わり方について悩みや疑問、不安がある場合は、お気軽にご相談ください。

こども家庭センター

時間 平日8:30～17:15

電話 33-1120



事例3

祭りや伝統行事など、学校だけでは取り組むことが難しい体験は子供たちにとって貴重な学びの機会となります

子供たちの豊かな学びのためには地域の皆さんの力が欠かせません。地域の皆さんにはこれまで培ってこられた知識や経験をぜひ、子供たちに伝えてください。



獅子舞



夜高の行燈制作



庄川観光祭 6月6・7日

県内花火シーズンの幕開けを告げる「庄川峡花火大会」や大中小20基の行燈による勇壮な「夜高行燈街練り」と迫力ある「夜高行燈合わせ」も行われ、庄川地域一円は伝統の灯と祭りの熱気に包まれ、大いに盛り上がりしました。

「夜高行燈コンクール」では、昨年最優秀賞の中部中路クラブの行燈が車軸トラブルで参加できなかった一幕も。中部中路クラブの審査順番を繰り下げるなどギリギリまで到着を待とうとする仲間たちの姿に改めて地域の絆を実感しました。



△夜高行燈コンクール

最優秀賞 京坂／優秀賞 中之島、下村／特別賞むかわ賞 京坂



観光祭を支える、輝きの舞台裏

華やかな観光祭の裏側には、長い期間をかけて行われる行燈制作があります。仕事や学校の合間をぬって集う住民たちの協力が、祭りの熱気を支えていました。地域住民の温かい笑顔と和気あいあいとした雰囲気は何より印象的でした。



となみ夜高まつり 6月12・13日

豊年満作・五穀豊穡を願う初夏の風物詩「となみ夜高まつり」が開催され、となみ野の夜高まつりの大トリを飾る祭りとして、優美な大小18基の夜高行燈が街を練り歩きました。「夜高行燈コンクール」では大小17基の行燈が豪華絢爛な美しさを競い合い、「夜高行燈突き合わせ」では大行燈が迫力満点の激しいぶつかり合いを繰り広げ、多くの観客を魅了しました。



▲夜高行燈コンクール
砺波市長賞 鍋島
砺波商工会議所会頭賞 新町
砺波市議会議長賞 新栄町

病院に響く夜高の熱気



6月12日、夜高行燈コンクールに先立ち、新町、新富町の皆さまのご厚意により、砺波総合病院に入院する患者さんへ夜高行燈と歌が披露されました。祭りの雰囲気を楽しみ、少しでも元気になってもらいたいという温かな想いが込められ、会場は笑顔と拍手に包まれました。